



## 【かゆいところに手が届く参考書、New Angle】

New Angle Times 第5号です。今回は『助動詞』に焦点をあて、参考書の特徴をご紹介します。本書には、日々の授業の中で活用できるようなコーナーやコラムなど、たくさんの『仕掛け』をご用意しております。なお、見本のご請求は裏面の営業所へお願いいたします。

### 助動詞の確信の度合い？

New Angle 参考書では、各章の初めに、先生と生徒の会話の中でこれから勉強していく内容や、文法についての考え方を理解できるようなコラムをご用意しております。

ここでは、“must”と“may”を例に出しながら体の症状の判断を段階的に示すなどして、確信の度合いを比べています。この他にも、“can”や“will”など1つ1つイラストを交えながら助動詞について触れています。授業前に、これから勉強する内容に触れておくことで、授業への取り組み方も変わってくるのではないのでしょうか。

参考書 P. 123 「第4章 助動詞 学習する前に」より

**先生** そうだね。“must”は「～しなければならない」と「義務」を表し、“may”は「～してもよい」と「許可」を表すんだね。では、次の2つの英文はどうか？ ⑦は「彼女は病気かもしれない」という意味を表している。では、⑧は？



**涼太** 「彼女は病気に違いない」という意味です。女の子の様子も結構つらそうで、確信の気持ちが強いです。

**先生** そうだね。「確信を表す度合い」が、“must”のほうが“may”よりもずっと高いんだ。ここで、先ほどの⑦と⑧の英文も思い出してみよう。“must”「～しなければならない」のほうが、“may”「～してもよい」よりも「判断を表す度合い」が高いことがわかるよね。

### コラムを活用してさらに深く！

#### Plusコーチ

#### 助動詞が表す確信の度合い

推量を表す助動詞の確信の度合いをまとめると、おおよそ次のようになる。

助動詞	推量の意味	例文
must	～に違いない	He <b>must</b> be sick. (彼は病気に違いない。)
ought to should	～のはずだ	He <b>ought to</b> be sick. (彼は病気のはずだ。) He <b>should</b> be sick.
can	～でありうる	He <b>can</b> be sick. (彼は病気でありうる。)
may might	～かもしれない	He <b>may</b> be sick. (彼は病気かもしれない。) He <b>might</b> be sick.
could	(ひょっとして)～ かもしれない	He <b>could</b> be sick. (彼はひょっとして病気かもしれない。)
can't	～であるはずがない	He <b>can't</b> be sick. (彼が病気のはずがない。)

確信の度合いは決まりごとではなく、話し手の気持ちや状況によって変わる。特に可能性の低いほうは変わりやすい助動詞の本質を表している。(参考書 P. 142)

助動詞の授業でよく活用される、「確信の度合い」の表。使用される先生も多いのではないのでしょうか？ New Angle では、「Plus コーチ」で「助動詞が表す確信の度合い」を扱っています。その他にも、義務を表す助動詞に特化した「使い分けの Point」を別のコラムとして扱っています。細かな部分にまで目を向けられる高い網羅性が、New Angle の特徴の1つです。

無料見本のご依頼は裏面のお申込みフォームから⇒

mustについて  
深掘り

#### 使い分けの Point 義務を表す助動詞

義務を表す助動詞について、話し手の気持ちの強さをまとめると、次のようになる。

- 強 You **must** go home now. (君はもう家に帰らなければならない。)  
↳ もう帰りなさい。【命令】
- You **had better** go home now. (君はもう家に帰りなさい。)  
↳ 帰らないと大変なことになるぞ。【威嚇】
- 弱 You **should** go home now. (君はもう家に帰ったほうがよい。)  
↳ 帰ることを勧めるよ。【助言】

特に注意を要するのは **had better** である。よく「～したほうがよい」と訳されるが、実際には強制や命令の意味合いが強く、「～しないといけない」という意味に近いのである。

(参考書 P. 143)

# ご採択校の先生にインタビュー！



東京都昭島市 啓明学園高等学校様

2016年から2年間継続して、高校2年生全員に New Angle 47 Textbook を宿題用ワークとしてご利用いただいております。



## 質問 ① ご採択のポイントは何ですか？



木幡先生

2015年度までは、高校2年生で「高校リード問題集 英語II」を使用していましたが、家庭学習用に説明が充実している問題集を探している時に New Angle のことを知りました。Unit 毎の説明も詳しく載っており、Textbook の巻末に付いている「入試実践問題」は、入試問題から抜粋した問題で構成されているので、入試にもしっかり対応できると思い採択しました。



営業担当



## 質問 ② New Angle 47 Textbook をどのように活用されていますか？



日々のドリルとして、授業で扱った単元の問題を解いてくるように指示を出しています。演習量が足りない場合には「入試実践問題」にも取り組ませているのですが、もう少し演習量を増やせればと考えています。



## NewAngle は日々進化中！

先方からの声をもとに、NewAngle 47 Workbook 補充 CD (無料) を作成しました。New Angle 47 シリーズのさらなる演習量アップに、ぜひご利用ください。



貴重なご意見を  
いただきまして  
ありがとうございました！



## 見本お申込みフォーム

### ご注文方法のご案内

こちらの用紙にご記入の上、FAX をお送りいただくか、直接お電話をおかけください。

### 送料のご案内

送料はかかりません。  **ご審査・ご検討用見本 (無料)**



お電話/FAXは以下へ

TEL. 03-3304-5562 FAX. 03-3304-5316

\*同封の見本: 総合英語(参考書)/27シリーズの Textbook & Workbook/47シリーズの Textbook & Workbook/ Test Box (テスト作成ソフト) サンプル CD の計【6点】

貴校名

お電話番号

送付先住所

ご担当者名

役職名

Email アドレス



教育開発出版株式会社

学校事業部 / 〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-39-19  
TEL.03(3304)5562 FAX.03(3304)5316  
<http://www.kyo-kai.co.jp/special/new-angle/>

